



# 7月のほけんだより

平成27年 第176号



## 夏に流行する感染症

毎年7月から8月に流行する夏かぜは、エンテロウイルスが原因で発症することが多く、手足口病とヘルパンギーナが有名です。このウイルスはほとんどが腸で増殖してから全身に広がります。そのほかアデノウイルスは有名なプール熱の原因となったり、扁桃腺に白いべったりした膿のようなものがつく扁桃腺炎の原因となったりします。

### 手足口病



手、足、口に発疹ができる病気で夏に流行することが多く、唾液（よだれ）や便を介して感染します。主な病原はコクサッキーウイルスとエンテロウイルスで、手のひら、足の裏に平らな楕円形の赤黒い水疱のような発疹が出現します。

ひじ、ひざ、おしりにも発疹が出るのがよくあり、発疹は数日で茶色くなって吸収されます。また口の中に直径2～3ミリの口内炎が多数出現します。

治療は対症療法が中心ですが、口内炎の痛みのために食欲が落ちて、点滴が必要となることがあります。通常は自然に治る病気なので、水分がとれていれば心配はいりません。

全身状態がよければ幼稚園や保育所（園）に行ってもかまいませんが、できれば食欲が戻るまで自宅で様子を見たほうがよいでしょう。



まれに髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経合併症や、心筋炎を生じることがあり、特にエンテロウイルスによる場合は中枢神経合併症に注意する必要があります。

高熱に伴うけいれん、意識障害、ふらつきや麻痺などの症状がある場合には、すぐに医師に相談しましょう！



## ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、発熱とのどを中心に赤みを帯びた水疱あるいは潰瘍かいようを特徴とし、夏に流行する子どもの急性ウイルス性咽頭炎です。流行性のものは特にA群コクサッキーウイルスの感染によるもので、感染経路は接触感染を含む経口感染と飛沫感染です。

治療は通常は対症療法のみで、時に脱水に対する点滴が必要なこともあります。

特別な予防法はありませんが、感染者との濃厚な接触をさけること、流行時にうがいや手指の消毒をすることなどが大切です。

「呉市保育所（園）・幼稚園における感染症の対応マニュアル」では、急性期の症状（発熱）が消退するまで出席停止となっており、医師の登園許可書が必要です。



## 咽頭結膜熱（プール熱）



アデノウイルスによる感染症で、プールでの感染も多くみられることから、プール熱とも言われていますが、必ずしもプールでうつるわけではありません。季節的には夏に流行が多いのですが、年中見られる疾患です。

発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともにのどの痛み、目の充血、眼痛、まぶしさ、流涙、目やにを訴え、3～5日間持続します。

最近、抗原検出キットがあり、迅速診断も可能です。



とくに治療法はなく対症療法が中心となります。通常は7～10日の経過で自然に治る病気なので、高熱が出ていてもあまり心配ありません。ただ食欲が落ちて水分が取れず、脱水で点滴や入院をする場合もあります。

予防としては感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒をすることなどです。プールを介しての流行に対しては、水泳前後のシャワーなど一般的な予防が大切です。



学校保健法では**主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止**となっており、**医師の登園許可書**が必要です。

ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>